

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 都島区

学 校 名 中野小学校

学校長名 牧野美奈子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中野小学校では、第6学年75名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔国語〕話す・聞くこと・書くことの領域は、大阪市・全国平均より下回る結果となった。言葉の特徴や使い方の関する事項・情報の扱い方に関する事項・我が国の言語文化に関する事項は、全般によくできていた。総合的読解力の学習を進める中で、書くこと・読むことの力が少しずつついてきているので、これからも継続して読む・書く活動に力を入れていく必要があると考える。話す・聞く活動も授業の中で機会を増やしていく。

〔算数〕各学年系統立てたノートの書き方と5段階の指導をどの学級も継続して行ってきたことや、習熟度別等少数人数指導を積極的に取り入れ、放課後の補習をしてきたので、どの領域も大阪市・全国平均を上回る結果となった。特に、第4区分の児童が大阪市や全国の半分の割合なのは、取り組みの成果だと考える。

〔理科〕どの領域も大阪市・全国平均を上回る結果となった。特に「生命」を柱とする領域が全国平均を9ポイントと大きく上回った。専科制の成果が表れたのではないかと考える。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕平均正答率が大阪市平均で、全国平均を約2ポイント下回る結果となった。話す・聞くことの領域は、大阪市平均を約2ポイント・全国平均を約5ポイント、書くことの領域は、大阪市平均約1ポイント・全国平均を約3ポイント、読むことが大阪市平均約2ポイント・全国平均を約3ポイント下回った。国語の基本となる3領域が苦手とする背景には外国籍の児童が多いことも一因ではないかと考える。個々の力に応じた学習の仕方の改善が必要ではないかと考える。ただ、他の3つ領域では、全国平均を約3ポイント上回っていることから国語に必要な力を持ち合わせているので、基礎基本に立ち返って学習を進めていく必要がある。

〔算数〕5領域どれも大阪市・全国平均を上回る結果となった。特に「図形」では、全国平均を12ポイントと大きく上回った。これは、各学年系統立てたノートの書き方と5段階の指導をどの学級も継続して行ってきたことや、習熟度別少数人数の指導を積極的に取り入れ、放課後の補習をしてきたので、個々に応じた学習の仕方が身につく、学習したことが定着してきたのではないかと考える。

〔理科〕全領域大阪市・全国平均を上回る結果となった。特に「生命」を柱とする領域は、全国平均を約9ポイントと大きく上回った。学習園の整備や専科制による授業で実験が充実し、興味関心を高める特別授業なども取り組み、理科好きの子が増えている結果ではないかと考える。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいですか」という項目が全国平均を上回り、前向きにとらえている児童が多かった。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことと思う」という項目は「そう思う」と回答した児童が90%おり、大阪市・全国平均を約8ポイント上回った。いじめについて考える月間や道徳などで取り組んできた成果が出たのではないかと考える。「学校に行くのが楽しいですか」という項目で「そう思う」という回答が大阪市・全国平均より約5ポイント高くなった。高学年として特別活動をはじめとするいろいろな場面でリーダーとして友だちと高めあいながら、頑張ろうという気持ちの表れでないかと考える。ただ、不登校や生き漁り傾向の児童も増えているので少しでも登校できるよう支援していく必要があると考える。

学習活動において、話合いにより自分の考えを深めたり、新しい考え方に気づいたりすることは目標としていた80%を下回った。しかし、学級会の話合いで学校生活をよりよくしようとする児童は85%を超えており、自分たちで解決していこうという自主的・主体的な態度が育ってきている。「理科の授業は好きですか」と答えている児童は大阪市平均を上回り全国平均とほぼ同じであるが、「外国語（英語）の勉強は好きですか」と答えている児童は、大阪市平均や全国平均より10ポイント以上、下回っている。平日、学校の授業時間以外に2時間以上勉強している児童が約30%で大阪市平均や全国平均を約5ポイント上回る結果となった。約80%の児童は、30分以上は学習しており自主学習が身につけてきている。

学校質問紙では、各児童の様子を可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換することでできている。教員が学級の問題を抱えている場合は、ともに解決にあたり、若手教員も安心して働ける職場づくりを進めている。

今後の取組(アクションプラン)

国語科の基礎・基本となる言語事項や読解力を高めるために今後も漢字学習の工夫や習熟度少数人数学習をより効果的に取り入れて学習を進めていく。書くことにも継続して力を入れ、いろいろな学習活動において振り返りを記述したり、自主学習を進めたりして自分の考えを順序立てて書けるようにしていく。また、少数人数で話し合う場面をどの単元でも取り入れ、友だちの意見をしっかりと聞き、自分の考えを相手に伝えられる児童の育成に継続して努める。

算数科は、引き続き習熟度別等少数人数指導を継続して進め、放課後の個別学習などで、反復練習を行っていく。ふり返りプリントを活用して児童の苦手な問題に慣れ自信をつけさせていきたい。

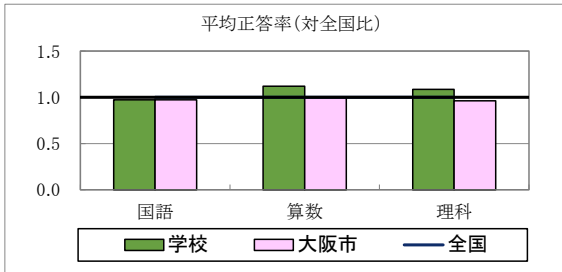
理科では、専科制を進め、児童が理科好きになるよう環境や教具を整備していく。また、自主学習を大いに賞賛していくことでの学びを深めさせ、より知りたい、調べたいという意欲を育てていきたい。

今年度も特別活動を研究領域とし、児童とともに学校をつくっていくを目標に掲げ、指導を進めている。高学年としての委員会活動やたてわり班のリーダー活動など活躍の場を多く持つことで、自己肯定感が上がっているのではないかと考える。年間のクラブ活動の時間を確保し、クラブ活動を楽しみに登校する児童もいる。不登校や生き漁りのある児童が少しでも多く登校できるよう職員室・保健室・会議室・図書室など子供の居場所を確保し、また、フリースクールとの併用や放課後登校など多様な形で対応を進めている。その結果、不登校気味の児童の中で、登校できる児童が増えてきている。少しでもその子にあったペースで学力保証をしていきたいと考える。

【 全体の概要 】

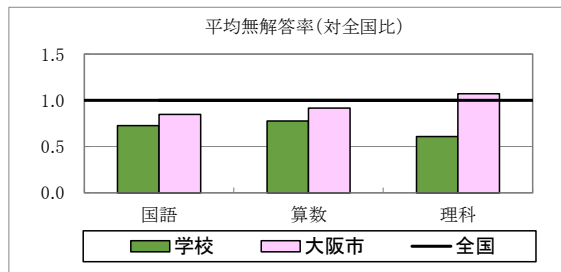
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	65	65	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.4	2.8	1.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



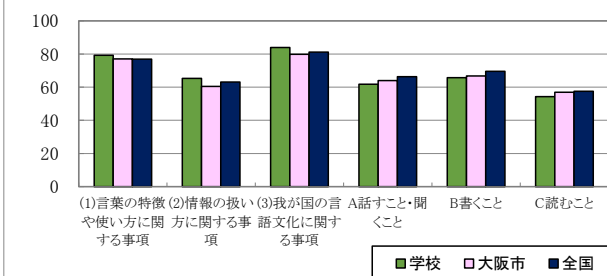
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	79.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	65.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	84.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	54.3	56.9	57.5

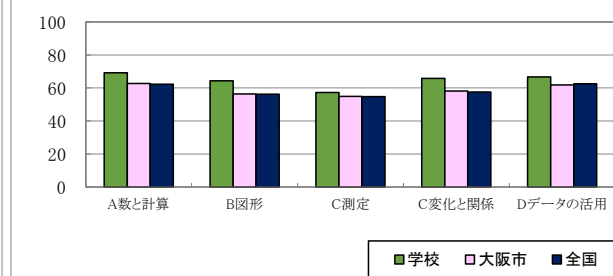
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	69.2	62.7	62.3
B 図形	4	64.3	56.4	56.2
C 測定	2	57.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	65.8	58.2	57.5
D データの活用	5	66.7	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

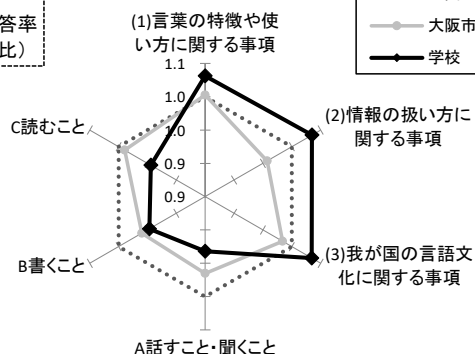


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



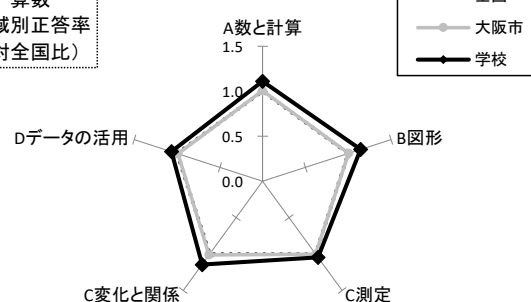
国語

内容別正答率
(対全国比)



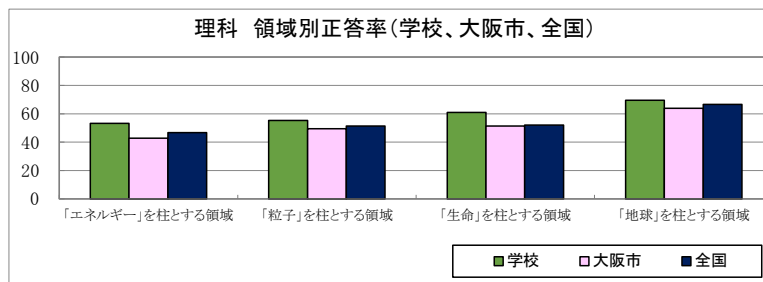
算数

領域別正答率
(対全国比)

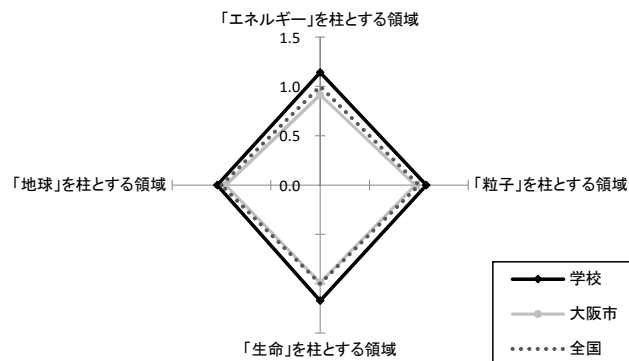


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	53.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	55.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	61.0	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	69.6	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



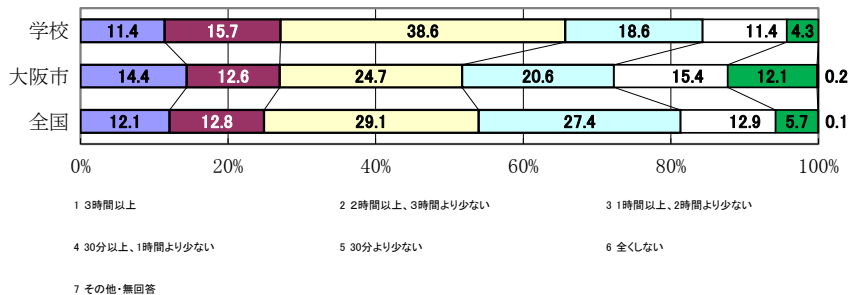
児童質問より

質問番号

質問事項

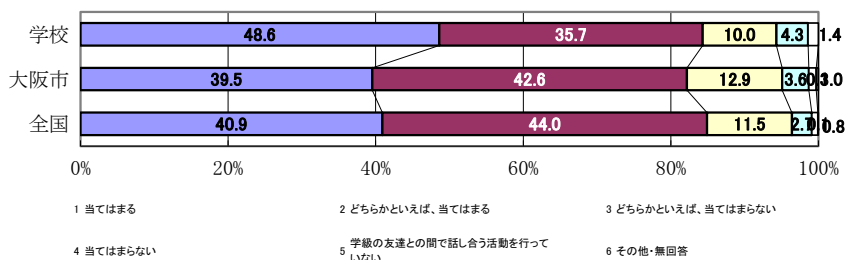
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



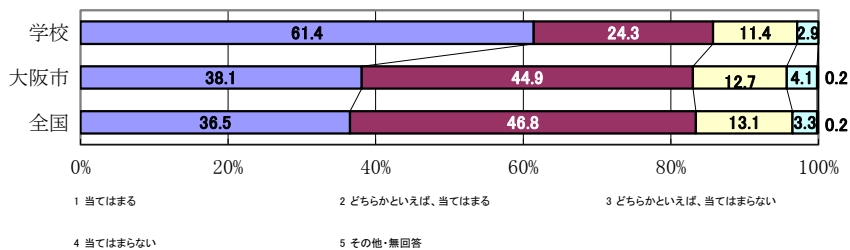
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



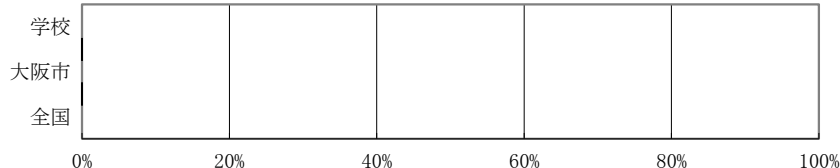
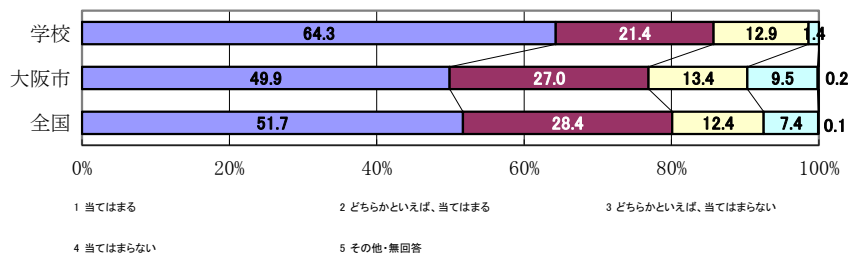
41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



61

理科の勉強は好きですか



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

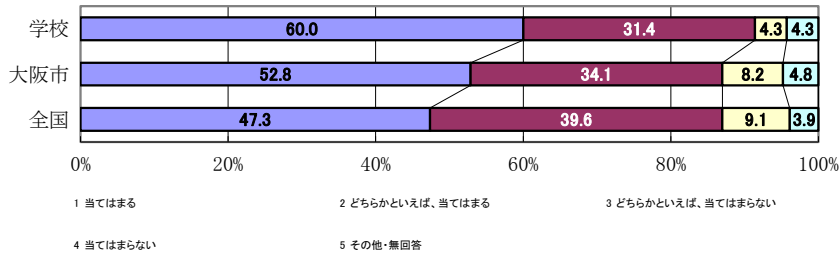
4

5

6

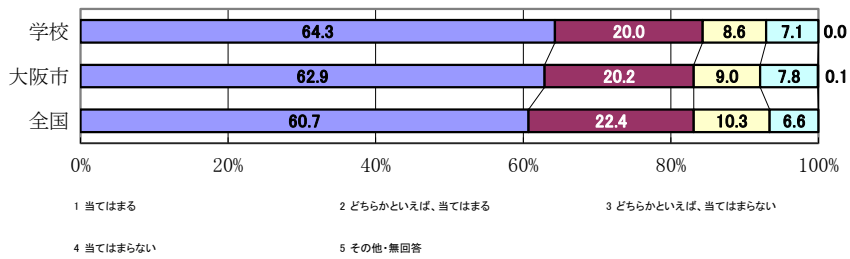
7

8



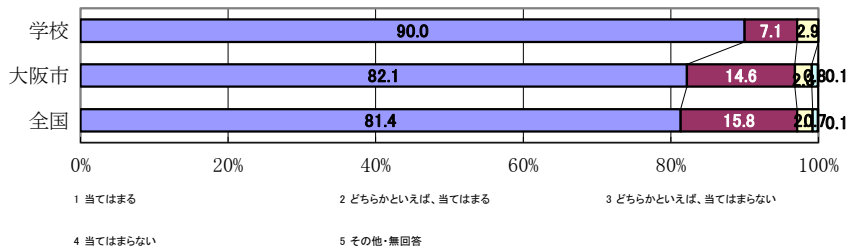
7

将来の夢や目標を持っていますか



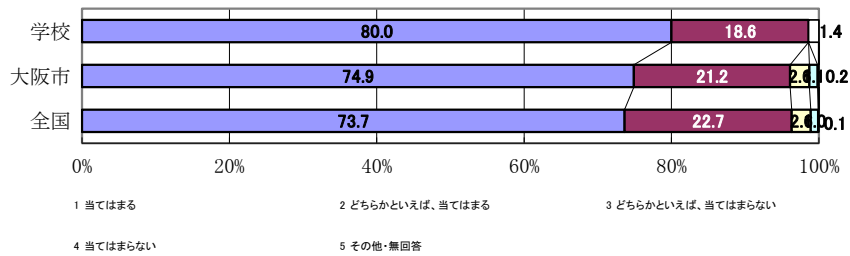
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



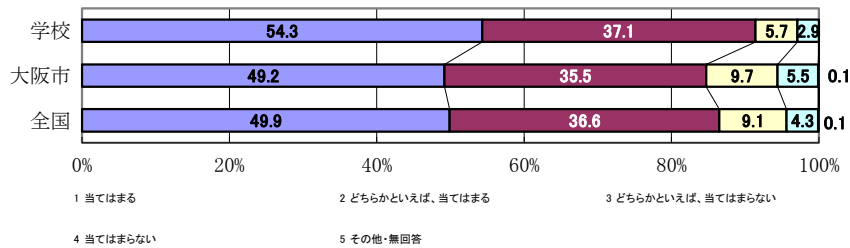
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

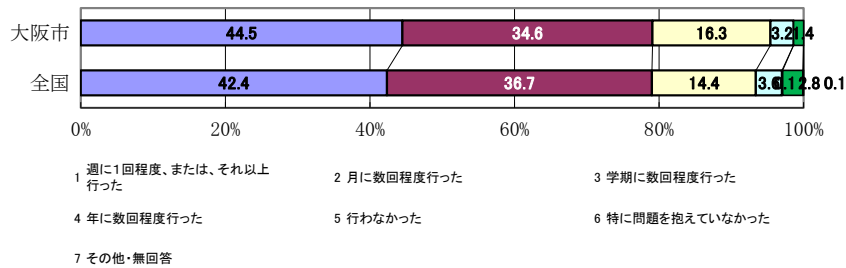
質問番号

質問事項

11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

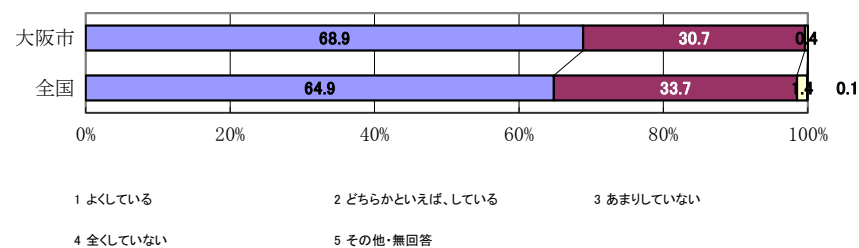
学校 「学期に数回程度行った」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

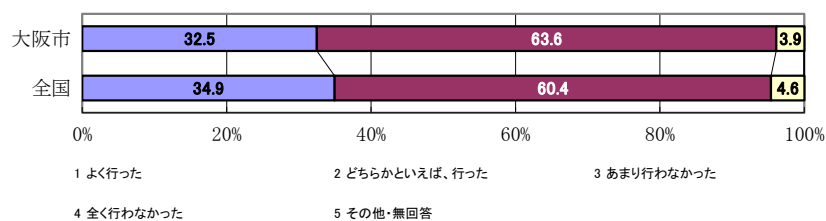
学校 「よくしている」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

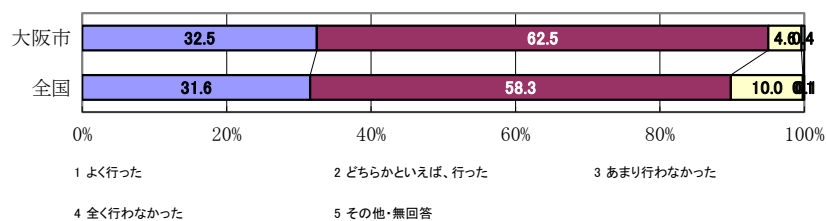
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択

